

日本近代建築史における最重要の資料
初の完全復刻！

復刻版 **現代建築**

全15号
付：『工作文化』



2



3



5



6

笠原一人●監修

国書刊行会

刊行に際して

笠原一人（京都工芸繊維大学大学院助教）

『現代建築』は、一九三六年に設立された日本工作文化連盟の機関誌として、一九三九年六月から一九四〇年九月までの間、ほぼ毎月発行された雑誌である。後継誌として一九四一年九月に創刊号のみ発行された『工作文化』を含めても、日本が太平洋戦争に突入する直前までのわずか二年余りの短い期間に発行されたものに過ぎない。しかしそこには、日本の建築史上まれに見る、重要かつ濃密な内容を持つ論考や計画案が多数含まれている。

写真を中心とした建築系雑誌とは異なり、特集形式によるテーマ性の高い論考を中心に編集されている点に大きな特徴がある。そしてそこに掲載された論考や建築作品は、いわゆるモダニズムの思想や方法に貫かれている。だが、当時のモダニストにとって大きな関心事であった「日本的なもの」を始めとして、新しい建築における創造性や記念性を問う論考が多数見られ、以前のモダニズムとは異なる様相を呈している。テーマに沿って提案された建築家の計画案も注目すべきものが多い。一九三二年に「建国」された満州の都市計画や建築のあり方をめぐる論考や野心的な計画案も目立つ。またナチスドイツの建築への関心も窺えるが、同時に、パウハウスなどモダニズムの前衛を駆逐したナチスに距離を置くこととする姿勢も見られるなど、当時の日本のモダニストらの苦悩を窺い知ることができる。

こうした戦時下ならではの関心やテーマを、ドイツ工作連盟の影響を受けて団体の名称にも用いた、「工作」という概念によって包括的に捉えようとしている。つまり『現代建築』は、戦時下において日本の建築家が大団結し、体制との距離を縮めつつもそこから独立し、ジャンルを拡張しながら、時代の中で建築家のあるべき姿勢と方法を問おうとした雑誌であったと言える。

日本工作文化連盟は、最大時の会員数約六百名という、戦前の日本の近代建築運動団体としては最大規模を誇ったが、そこにはモダニズムを標榜し、戦後に日本の建築界をリードすることになる建築家が多数参加していた。それは、この雑誌の影響が戦後にも及んでいることを示唆している。また日本工作文化連盟は、『現代建築』の発行以外には目立った活動を展開することはできなかったが、そのことは、この連盟の軌跡のほぼすべてがこの『現代建築』に集約されていることを意味している。

このような雑誌が復刻されることは、戦後六十年以上が経ち、十分な距離を置いて当時を振り返ることができると今こそ、意義深いと言える。分野を超えて、多くの人々に読まれることを期待したい。

復刻版『現代建築』を推薦する

八束はじめ（芝浦工業大学教授）

戦時の困難な時期に日本の前衛建築家たちを集めた「日本工作文化連盟」があった。彼らは反動化する日本の建築文化一般に抗して、いわゆる新興建築、つまりモダニズムの理念を日本、更には大東亜に拡げようとしていた。この呼称はドイツ工作連盟から借りていると思われるが、「工作」つまり諸々の建設活動がもつ「文化的な力への抱負と期待」がそこには籠められている。その機関誌が『現代建築』である。理想と同時に、数々の政治的矛盾もまた刻み込まれた時代の困難の縮図であり、実に貴重な歴史的資料である。坂倉準三のバリ万博での成功から、若き丹下健三のロマン派の色濃いデビュー論文「ミケランジェロ頌」、前川國男の戦時色の強いデザイン、そして彼らアヴァンギャルドたちによる多くの大陸のためのプロジェクトなどがここに勢揃いしている。それは戦後の丹下や更に後のメタボリスたちの仕事を先駆している。敗戦によってその政治的文脈は一八〇度正反対に針が振れたとしても、そこに籠められた近代的な建築文化への抱負と理念は戦後に引き継がれているのだ。今回それが国書刊行会の手で復刻される意義は、強調してもしすぎることはない。研究者のみならず若いデザイナーたちにとっても新鮮な驚きを与える刊行であると信じて止まない。

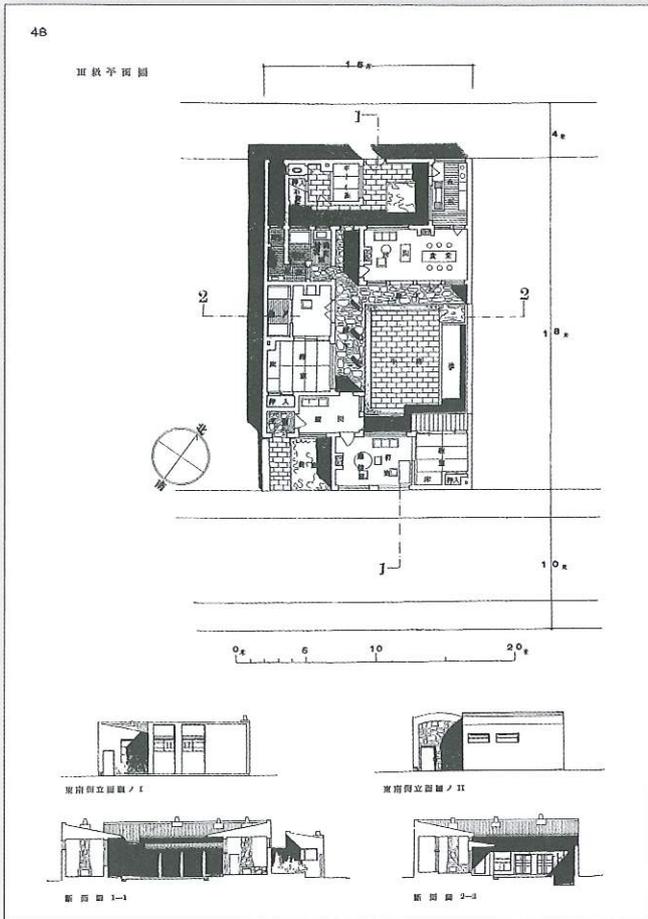
『現代建築』の歴史的意義

藤岡洋保（東京工業大学大学院理工学研究科教授）

『現代建築』は一九三六（昭和一一）年に結成された日本工作文化連盟（理事長は岸田日出刀）が発行した月刊誌で、一九三九年六月から翌年九月まで刊行された。初期のものでは、上質紙を用い、写真や図版を大判で配し、モダンな装幀にしていたあたりに編集者の意欲が感じられる。

短命ではあったが、戦時に発行されたという事実がこの雑誌を日本近代建築史における特別な存在にしている。第一号の冒頭で、日本がアジアに侵攻するという状況を是認しつつ、「興亜の大業の真の成功は文化の威力によってのみ得られる」と、厳しい状況の中で「文化」に可能性を見ようとする同連盟の意図が示されているが、一九三七年のバリ万博のために製作した映画「日本の建築」以外には、あまり目立った活動はなく、同誌に掲載された言説がその活動の証であり、それは同連盟の理事や幹事・委員を中心とした文化プロパガンダだったといえる。当時はすでに資料統制が行われており、民需の建築では本格的なものがつくれなくなっていたので、その編集方針は言説中心になった。つまり、同誌には当時を代表するモダニストの意向が示されることになったのである。それは、国際的孤立を深めつつあった中で、西洋と価値観（近代建築）を共有しつつ、それが日本の伝統的な建築と同様の美学に基づくものだという優越性をともに主張しようとした点においてである。その意味で、この雑誌は昭和一〇年代の日本の近代建築思想を象徴する存在として貴重な資料なのである。今回それが復刻されて多くの人の目に触れることになったのは意義深いことと言える。

◎堀口捨己、岸田日出刀、坂倉準三、前川國男、谷口吉郎、吉田鉄郎ら錚々たる面々の論考と図版を収録。



49

大陸建築座談會

日本工作文化聯盟主催

昭和十四年十月十六日於神田學士會館

出席者 市浦 健 坂倉 準三 堀口 捨己
吉村 辰夫 高山 英華 土浦 龜雄
村田 政範 内田 祥文 山田 守
前川 國男 坂倉 準三 佐藤 武夫
岸田 日出刀 森田 茂介 (イ・ノ・原)

岸田 では是から開會致します。本夕は御忙しい所を御出席下さいまして誠に有難うございました。

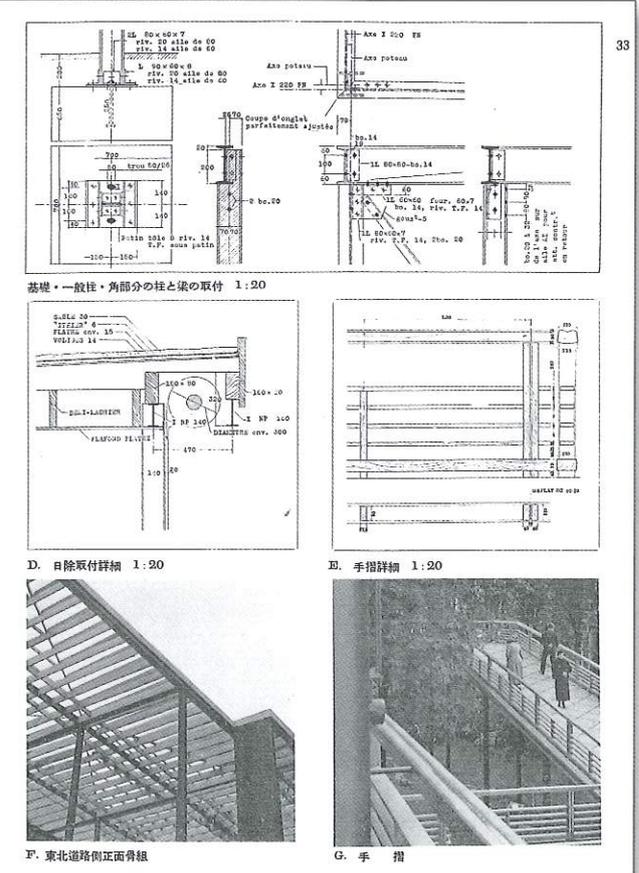
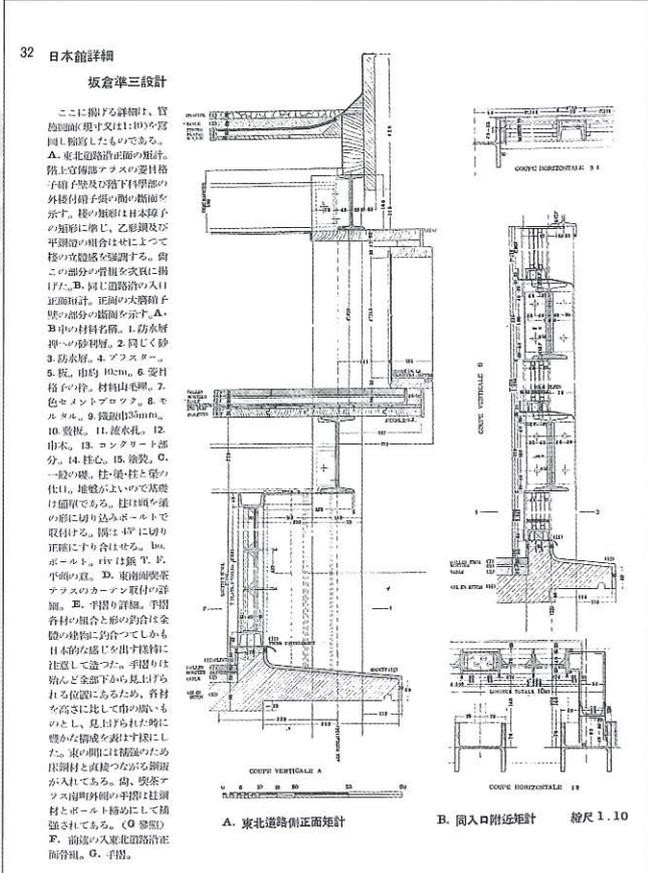
今夕の會は、暫く會を催しませんでした所、此の夏に大陸各地を視察され、又大陸に於て仕事をされて居ります會員の方々か丁度東京に歸られましたので、誠に好い機会だと存じまして此の會を開きました次第でございます。滿洲方面には土浦さん、坂倉さん、村田さん、及び私が行って参りました。尤も土浦さんは今日では滿洲に於ける御仕事の方が休職のやうでございます。又前川さんは御仕事の關係で上海の方へ永らく行つてお居になりました。そんな關係で今夕は専ら大陸の建築なり、藝術なり、文化其の他のことに付きまして色々座談的に御話合を願ひたいと存じます。順序と致しまして、先づ大陸各地を御廻りになり、又大陸各地に於て仕事をされて居ります方々から、視察談なり、御感想なりを伺つたら、定めし有益な御話が湧山あるだらうと存じますので、さう云ふ風に致したいと思ひます。其の御話が一通り済ましてから、座談的に色々御意見の交換なり、御話合を願つたらば、極々興味が有り、又有益であらうと存じます。

それでは私僭越でございますけれども座長をさせて頂きます。最初に土浦さんに、大陸に於ける御仕事の御様子、御感想、御抱負、或は各地を旅行されました時の御話などを一通り御願ひ致しう存じます。

土浦 今年の春から滿洲に事務所を設けてましてぼつぼつ仕事を始めたのでありますが、今滿洲に於てどう云ふ仕事が建築家を要求するかと云ふことを申し上げませう。先づ第一に産業の擴充の爲に非常に薄山の工場が設立されてついでありますので、工場の建築は勿論のこと、それに附随する住宅及び其の社員の福祉施設と云ふものが非常に大規模に計畫されつゝあるのであります。それでさう云ふ仕事の爲に非常に多数の建築家を要求されて居るのでありますが、まだ滿洲には充分に建築家が進出して居りません。私が關係しました仕事では、工場建設に伴ふ住宅計畫と云ふのが今年の主なる仕事でありましたが、滿洲では工場計畫が非常に大規模であつて、工場を建てて一年前、或は二年前に先づ住宅計畫をします。

私の關係してゐる安東と吉村の住宅計畫は計畫が大きいのと、急いでゐる爲めに、内務局で最初にくる間

第8号より



第一号より

(※約45%に縮小)

【関連図書】

復刻版 インターナショナル建築

全29号+別巻1

日本のモダニズム建築揺籃期を飾る幻の雑誌、初の完全復刻！

監修◎京都国立近代美術館



原本書影

- 日本近代建築史において必ず言及される重要な機関誌でありながら、「幻の雑誌」としてその全容が不明だった本誌を全号完全復刻。
- 建築史のみならず、1930年代のモダニズム文化、美術、風俗、社会史研究にも有用な第一級の基礎資料である。
- 復刻に当たって、インターナショナル建築会会員の中尾保による書籍『インターナショナル建築』をも参考資料として復刻し、別巻に収録。本誌理解のための一助とした。また別巻には総目次及び解説論文を完備し、読者の利用の便を図った。
- 上野リチによる装飾図案など、彩色図版はすべて原色に忠実に再現。
- 関西を中心にして、建築写真・図面を多数掲載。地域資料としても活用が可能。

■ 体裁・造本 ■

A4変形版・上製クロス装・セット函入

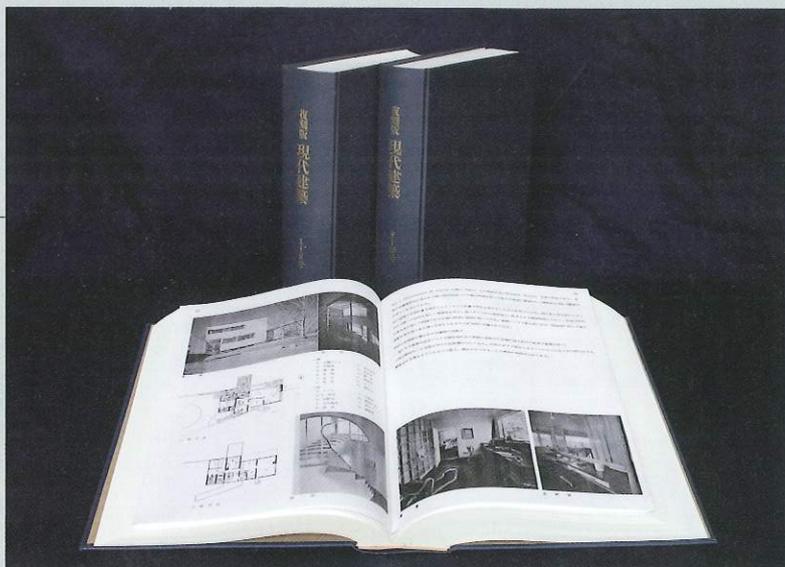
揃定価：本体68,000円+税

ISBN978-4-336-05088-5

復刻版 現代建築

全15号+別巻1

監修●笠原一人(京都工芸繊維大学大学院助教)



■ 体裁・造本 ■

B5判・上製クロス装・セット函入

上・下分冊+別巻1冊

揃定価：本体83,000円+税(分売不可)

ISBN978-4-336-05446-3

原本提供：日本女子大学(現代建築)

京都工芸繊維大学附属図書館(工作文化)

■ 本書の特徴 ■

- 堀口捨己が理事長、岸田日出刀が理事、坂倉準三や前川國男、谷口吉郎、吉田鉄郎ら錚々たる面々が委員を務めた、日本近代建築史上最も有名な建築運動団体機関誌を初の全号完全復刻。
- 建築史研究のみならず、戦前期文化や社会史研究にも有用な第一級の資料。
- 満洲等の植民地や大陸における建築に関する写真・図面・論考も多数収録。
- 復刻に当たって、日本工作文化連盟が刊行した後継誌『工作文化』をも復刻し、別巻に収録。本誌理解のための一助とした。また別巻には総目次及び監修者による解説論文を完備し、読者の利用の便を図った。
- 表紙その他の色刷り部分は、原色で再現した。

■ 本書をお勧めしたい方々 ■

建築学・建築史研究者、日本美術史・デザイン史研究者、日本近現代史研究者、日本社会史・風俗史研究者、日本文化史、思想史研究者の方々に。

大学図書館、公共図書館。

2011年10月刊行

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15

Tel.03-5970-7421 Fax.03-5970-7427 <http://www.kokusho.co.jp>

発行
国書刊行会

お取り扱い書店